



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月14日

上場会社名 株式会社まぐまぐ 上場取引所 東・福
コード番号 4059 URL <https://www.mag2.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 熊重 晃
問合せ先責任者（役職名） 取締役（氏名） 西迫 宏文（TEL）03(5719)5703
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年9月期第3四半期の業績（2025年10月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	368	16.4	2	△71.7	△1	—	6	119.6
2025年9月期第3四半期	317	△7.5	8	183.1	8	189.2	2	20.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	2.14	2.10
2025年9月期第3四半期	1.02	1.00

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第3四半期	1,078	894	83.0
2025年9月期	997	845	84.7

（参考）自己資本 2026年9月期第3四半期 894百万円 2025年9月期 845百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	488	11.4	30	49.9	17	△14.2	15	8.0	5.46

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年9月期3Q	2,987,000株	2025年9月期	2,871,600株
2026年9月期3Q	49株	2025年9月期	49株
2026年9月期3Q	2,953,707株	2025年9月期3Q	2,818,985株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やAI・半導体分野への官民投資拡大により緩やかな回復基調で推移した一方、原油価格の上昇や物価・金融市場の動向が下押し要因となりました。世界経済においては、米国を中心とする旺盛なAI及び設備投資が下支えとなったものの、高金利や中東情勢に伴うエネルギー価格の上昇により減速懸念が高まりました。先行きについては、賃金上昇や設備投資、AI関連による生産性向上が景気を下支えすると期待されております。しかしながら、地政学リスクの長期化やエネルギー価格、為替及び金利動向を含む金融政策の不確実性など、景気の下振れリスクには引き続き注視が必要な状況にあります。

当社を取り巻く事業環境において、プラットフォーム事業が属する静止画・テキストコンテンツ市場につきましては、「デジタルコンテンツ白書2025」（一般財団法人デジタルコンテンツ協会）によると2024年のコンテンツ産業の市場規模は14兆288億円（前年比103.1%）となり、調査開始以来となる14兆円超えを初めて達成いたしました。また、当社のメディア広告事業が属するインターネット広告市場につきましては、「2025年日本の広告費」（株式会社電通）によると4兆459億円（前年比110.8%）と、前年より3,942億円増加し、1996年の推定開始以来、初めて4兆円を超えました。SNS上の縦型動画広告やコネクテッドTV（インターネットに接続されたテレビ受像機）などの動画広告需要の高まりなどが、市場全体の拡大に寄与しました。

当社は2026年7月21日付で、福岡証券取引所Q-Board市場へ上場し、東京証券取引所スタンダード市場との重複上場となりました。

本上場を契機として、九州及び周辺地域における認知度及び信用力の向上並びにネットワークの拡充を推進するとともに、投資家との対話機会の拡大を通じて、個人株主の増加及び株式の流動性向上に取り組んでまいります。

当第3四半期累計期間における当社の業績は、売上高368,901千円（前年同期比16.4%増）、営業利益は2,472千円（前年同期比71.7%減）、経常損失は1,725千円（前年同期は経常利益8,948千円）、四半期純利益は8,791千円（前年同期比119.6%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、メルマガ配信プラットフォーム「まぐまぐ!」等が属しております。金融、テクノロジー、ビジネス分野をはじめとする各領域の専門家や有識者が、自らの知見や見解を継続的に発信する場として活用されており、有料メルマガを軸としたストック型の課金モデルを基盤としております。メディア広告事業との連携により新規クリエイターの獲得を図るとともに、機能改善やサポート体制の強化を通じて、発行者及び読者双方の利便性向上に努めております。

その結果として、プラットフォーム事業の売上高は230,346千円（前年同期比8.6%減）、セグメント利益は130,185千円（前年同期比8.7%減）となりました。

② メディア広告事業

メディア広告事業は、Webメディアの運営ならびに「Webメディアコンテンツ」および「メルマガコンテンツ」における広告枠の販売が属しております。

当社は、「MAG2 NEWS」、「MONEY VOICE」、「TriP Editor」、「by them」などの自社媒体を運営し、メディアの認知度およびユーザー満足度の向上に取り組んでおります。記事内容の最適化や特集展開を進めた結果、主要媒体のPV数およびUU数は堅調に推移いたしました。また、クリエイターの活動支援および活性化に関する施策と連携し、これらを通じて蓄積した知見やブランディング成果をコンテンツ強化および媒体価値の向上に活用しております。

その結果として、メディア広告事業の売上高は91,545千円（前年同期比41.7%増）、セグメント利益は21,506千円（前年同期比39.5%増）となりました。

③ その他事業

その他事業においては、イベント企画等が属しております。イベント企画は、クリエイターの活動支援および活性化を目的として実施しているものであります。

当社は、イベントを通じてクリエイターの認知度および信頼性の向上を支援し、そのブランド価値の向上に寄与しております。これらの活動は、当社プラットフォームおよびメディア価値の向上にもつながる取り組みであります。

その結果として、その他事業の売上高は47,008千円（前年同期比14,039.6%増）、セグメント利益は33,339千円（前年同期セグメント損失515千円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ80,693千円増加し、1,078,202千円となりました。これは主に、現金及び預金が60,926千円増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ31,094千円増加し、183,272千円となりました。これは主に、買掛金が34,956千円増加した一方、預り金が2,572千円減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ49,599千円増加し、894,930千円となりました。これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が6,324千円増加したこと並びに、ストックオプションの行使により資本金および資本剰余金が21,637千円それぞれ増加したことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、2025年11月13日の「2025年9月期決算短信」で公表した通期の業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	928,339	989,265
売掛金	22,621	28,191
前払費用	9,693	24,300
その他	151	3,687
流動資産合計	960,806	1,045,444
固定資産		
有形固定資産	7,879	8,557
無形固定資産	8,845	7,471
投資その他の資産	19,977	16,729
固定資産合計	36,702	32,758
資産合計	997,509	1,078,202
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,721	44,677
未払法人税等	4,969	3,502
預り金	92,870	90,298
その他	44,616	44,794
流動負債合計	152,178	183,272
負債合計	152,178	183,272
純資産の部		
株主資本		
資本金	329,978	351,616
資本剰余金	524,737	546,375
利益剰余金	△9,350	△3,025
自己株式	△35	△35
株主資本合計	845,330	894,930
純資産合計	845,330	894,930
負債純資産合計	997,509	1,078,202

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	317,054	368,901
売上原価	115,895	138,995
売上総利益	201,158	229,906
販売費及び一般管理費	192,408	227,433
営業利益	8,750	2,472
営業外収益		
受取利息	65	131
雑収入	7	180
未払配当金除斥益	124	—
営業外収益合計	198	312
営業外費用		
上場関連費用	—	4,500
雑損失	—	10
営業外費用合計	—	4,510
経常利益	8,948	△1,725
特別利益		
投資有価証券売却益	—	8,791
特別利益合計	—	8,791
特別損失		
本社移転費用	5,356	—
投資有価証券売却損	—	29
特別損失合計	5,356	29
税引前四半期純利益	3,592	7,036
法人税等	712	712
四半期純利益	2,879	6,324

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第3四半期会計期間末において資本金及び資本準備金がそれぞれ21,637千円増加しました。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じた金額に、繰延税金資産の回収可能性を考慮しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	252,119	64,602	316,721	332	317,054
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	252,119	64,602	316,721	332	317,054
セグメント利益	142,515	15,421	157,937	△515	157,421

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 千円)

利益	金額
報告セグメント計	157,937
「その他」の区分の損失(△)	△515
全社費用(注)	△148,670
四半期損益計算書の営業利益	8,750

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	230,346	91,545	321,892	47,008	368,901
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	230,346	91,545	321,892	47,008	368,901
セグメント利益	130,185	21,506	151,692	33,339	185,032

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	151,692
「その他」の区分の損失(△)	33,339
全社費用(注)	△182,559
四半期損益計算書の営業利益	2,472

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	406千円	1,905千円